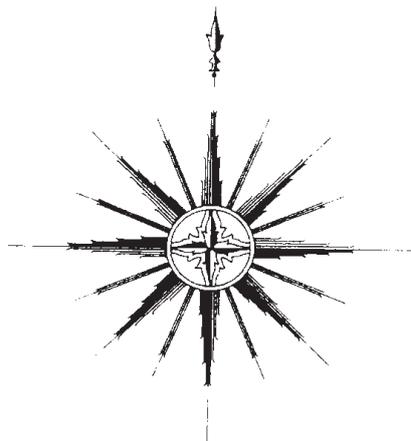


# 研究活動報告

(2020年4月～2021年3月)



## 凡 例

- (1) 現在の研究テーマ
- (2) 著書、論文、その他
- (3) 研究発表、講演
- (4) 学外集中講義など
- (5) 海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- (6) 科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- (7) 共同研究、受託研究など
- (8) 学会・研究会・講演会などの開催

# 文化財論講座

## 上 條 信 彦

### (1)現在の研究テーマ

- 東アジア先史時代の食文化・食品加工技術の研究

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 上條信彦『磨石・石皿類の磨耗痕－民族資料との比較から－』共著、2020年10月、同成社
- 上條信彦『河姆渡と良渚 中国稲作文明の起源』共著、2020年12月、雄山閣

#### [論文]

- 上條信彦・小林和貴・片岡太郎・吉川純子・鈴木三男「古代における布生産 内田原・俎原遺跡における新知見を通じて」『長野県考古学会誌』第160号、2020年9月、共著
- Katsunori Tanaka, Chunfang Zhao, Ningyuan Wang, Shinji Kubota, Masaaki Kanehara, Nobuhiko Kamiyo, Ryuji Ishikawa, Hiroyuki Tasaki, Minako Kanehara, Bin Liu, Minghui Chen, Shin-ichi Nakamura, Tetsuro Udatsu, Cailin Wang “Classification of archaic rice grains excavated at the Mojiaoshan site within the Liangzhu site complex reveals an Indica and Japonica chloroplast complex” *Food Production, Processing and Nutrition*, 2(1), July 2020

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 上條信彦・早川太陽「石器からみた津軽平野の水稲農耕定着過程」日本考古学協会第86回総会、共同、2020年5月23日
- 田中克典・宇田津徹朗・田崎博之・上條信彦・石川隆二「プラント・オパール中の遺伝情報に基づいたイネタイプの検討」日本文化財科学会第37回大会、共同、2020年9月12-13日
- 宇田津徹朗・田中克典・田崎博之・上條信彦「プラント・オパール中の遺伝情報を利用した稲作史研究手法の構築に向けた学際的研究（I）」日本文化財科学会第37回大会、共同、2020年9月12-13日
- 上條信彦・高橋和也・南武志「イオウ同位体比分析による列島産アスファルトの原産地推定」日本文化財科学会第37回大会、共同、2020年9月12日

#### [講演]

- 令和2年度縄文文化大学講座「石皿・すり石はどう使ったか、－縄文の食料加工研究最前線－」茅野市尖石縄文考古館、令和2年（2020年）11月1日

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（B）「稲作北限域における農耕化プロセスの研究」（研究代表者）2019年度～2022年度
- 挑戦的研究（萌芽）「遺跡出土アスファルトの高精度原産地推定法の開発と先史流通システムの解明」（研究代表者）2019年度～2021年度
- 基盤研究（S）「東アジアにおける農耕の拡散・変容と牧畜社会生成過程の総合的研究」（研究分担者）2019年度～2023年度
- 基盤研究（A）「プラント・オパール中の遺伝情報を利用した稲作史研究手法の構築に向けた学際的研究」（研究分担者）2019年度～2023年度

### (7)共同研究、受託研究など

- 平川市「平川市文化財を活かした魅力発信に関する調査研究」（研究代表者）2020年度（共同）
- 東北歴史博物館「東北太平洋沿岸地域の弥生時代イネ圧痕土器の研究」（研究代表者）2020年度（共同）
- 大崎市教育委員会「通木田中前遺跡出土の種子痕及び種皮混入土器の研究」（研究代表者）2020年度（共同）
- 七戸町「東北地方貝塚出土漆製品の研究」（研究代表者）2020年度（受託）
- 株式会社 古環境研究所「先史時代における資源鉱物利用戦略の解明」（研究代表者）2020年度（受託）
- 公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業「群馬県内出土アスファルトの産地推定」（研究代表者）2020年度（受託）

### (9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 有形文化財の保存・活用
- 身のまわりにある古いものに関する分析

### (10)今年度中に行う予定のセミナー・シンポジウム・講演会などの予定

- 平川市「平川市の宝」11月

## 杉山 祐子

### (1)現在の研究テーマ

- 在来知、農民によるイノベーション過程としてのアフリカ農村の変化 (FIH: Folk Innovation History, or LIH: Local Innovation History)、開発プロジェクトの「その後」
- グローバル化の進展と「現金の社会化」、ジェンダー
- 北東北地域における小規模アグリビジネス

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 杉山祐子『ザンビアを知るための55章』 pp.125-127、2020年8月、明石書店

#### [論文]

- Yuko Sugiyama "Making innovation socially inclusive: lessons from the Bemba in Zambia" *Rethinking African Agriculture*, 125-140, Oct.2020

#### [速報, 短報, 研究ノート等]

- 杉山祐子「報告要旨 一石二鳥の在来知—焼畑農耕民ベンバの事例から」『東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所共同研究「人類社会の進化史的基盤4」』、2020年6月、単著

#### [総説・解説]

- 杉山祐子「ベンバ」『ザンビアを知るための55章』 pp.120-125、2020年8月、単著

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 杉山祐子「一石二鳥の在来知」第4回定例研究会：社会性の起原と進化、東京外国語大学オンライン、2020年6月27-28日、単独
- 杉山祐子「生計への現金の組み込みと食戦略の変化」アフリカ農民の生計における現金獲得活動と在来の技術革新史2020年課題研究会、オンライン、2020年8月29-30日、単独

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (B)「アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と「在来の技術革新史」への視角」(研究代表者) 2018~2021年度
- 基盤研究 (S)「社会性の起原と進化—人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓」(研究分担者) 2019~2023年度

### (7)共同研究、受託研究など

- 国内共同研究「社会性の起原と進化」東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所、2019~2020年度
- 学内共同研究「AI津軽弁プロジェクト」弘前大学機関研究、2020年度

### (9)私たちがお手伝いできること (地域との連携が可能なテーマ)

- 社会調査、生活文化調査
- 食文化と地域産品

## 関根 達人

### (1)現在の研究テーマ

- 縄文 中近世考古学 北方史 琉球孤の考古学 石造物

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 関根達人「寺院過去帳を用いた近世墓標研究の視点と方法—陸奥盛岡藩領北郡田名部を例として—」『日本考古学』第51号、pp.43-62、2020年11月、単著 (査読有り)
- 関根達人「近世武家の儒葬—『庚申喪事記』の検討を中心に—」『日本考古学』第50号、pp.39-52、2020年5月、単著 (査読有り)
- 関根達人「北海道松前町上川遺跡発掘調査報告」『北海道考古学』第57号、pp.85-104、2021年3月、単著 (査読有り)
- 関根達人「近世大名墓の本葬・分霊・改葬」『近世大名墓の展開』 pp.128-142、2020年11月、単著
- 関根達人「近世奄美における墓石の受容—沖永良部島と徳之島の比較から—」『人文社会科学論叢』第9号、pp.1-22、2020年8月、単著

- 関根達人・木戸奈央子「サハリン出土の越後産焼酎徳利（「松前徳利」）」『中近世陶磁器の考古学』第12巻、pp.131-144、2020年8月、共著
- 関根達人・田坂里穂「蝦夷刀三例－太刀と腰刀－」『弘前大学國史研究』第149号、pp.31-39、2020年11月、共著（査読有り）
- 関根達人「「松前口」での手工業生産と「蝦夷土産」」『近世国家境界域「四つの口」における物資流通の比較考古学的研究（2016～2020年度科学研究費補助金（基盤研究B課題番号16H03510）研究成果報告書）』pp.53-63、2021年3月、単著

[その他]

- 関根達人「歴史の「化石」を読み解く」『本郷』第147号、pp.26-28、2020年5月、単著
- 関根達人「縄文文化のなかの居徳遺跡－土佐市居徳遺跡出土の亀ヶ岡式土器－」『高知県立埋蔵文化財センター30周年金特別展図録『発掘の軌跡』』pp.11、2020年10月、単著
- 関根達人「なぜ人は石に刻むのか？－江戸時代の石造物から考える－」『月刊石材』第476号、pp.30-37、2020年5月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 関根達人「EPMAおよびLA-ICP-MSを用いた大洞式土器の胎土分析について」日本考古学協会第86回総会、COVID19のため紙上発表、2020年6月30日、共同

[講演]

- 関根達人「考古学から見た和人の北方進出」草莽志塾講演会、2021年10月10日、単独
- 関根達人「北の縄文 ストーンサークルの謎」静岡新聞社SBS学苑古代史探訪、2021年3月27・28日、単独
- 関根達人「史跡是川石器時代遺跡と小牧野遺跡の見所－史跡亀ヶ岡石器時代遺跡と大森勝山遺跡との比較で－」あおりリズム創発塾、2020年8月7日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 公益財団法人高梨学術奨励基金特定研究助成「考古学と自然科学の融合による北日本縄文文化の研究」（研究代表者）2020～2022年度
- 基盤研究（B）「サハリンアイヌの総合的研究：その成立と変貌」（研究分担者）2017～2021年度
- 基盤研究（B）「近世国家境界域「四つの口」における物資流通の比較考古学的研究」（研究分担者）2016～2020年度

(7)共同研究、受託研究など

- 是川縄文館第3期共同研究「火山ガラスからみた八戸地域における土器の変遷と地域間交流の解明」（2019～2021年度）
- 人文社会科学部附属北日本考古学研究センター研究協定「山王団遺跡出土資料の研究協力に関する協定」（宮城県栗原市教育委員会、2020～2025年度）

(8)学会・研究会・講演会などの開催

- 展示会「弘前大学の考古学」弘前大学人文社会科学部附属北日本考古学研究センター、2019年10月23日～11月30日

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 文化財の調査・保存・活用に関すること

## 宮 坂 朋

(1)現在の研究テーマ

- 古代末期の地中海世界、特に交易と壁画の様式の問題

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 宮坂朋「商業神ヘラクレス」『人文社会科学論叢』第9号、pp.43-59、2020年8月、単著（査読無し）

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- イタリアの世界遺産と文化財行政
- 地中海世界の文化・美術に関すること
- 現代アートでまちづくり

## 山 田 巖 子

(1)現在の研究テーマ

- 潜在的な宗教者、民俗信仰の再文脈化、世間の認識と世間話

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 佐々木達司（編著）、山田巖子・小池淳一（補訂）『青森県俗信辞典』、編者、2021年3月、人間文化研究機構領域連携型基幹研究プロジェクト

[論文]

- 山田巖子「方法としての〈カタリ〉 民俗学を超えて」『カタリとハナシー世間話研究の展開』pp.95-119、2020年4月、単著（査読無し）

[書評、文献紹介等]

- 山田巖子「五感で読む「声」と「文字」—川島秀一『「本読み」の民俗誌』『日本口承文芸学会』pp.240、2021年3月、単著

[会議報告等]

- 山田巖子、武井紀子「青森の民俗資料や文献史料など文化資源の発見と活用に関する「青森モデル」の構築」『地域未来創生センタージャーナル』第7号、pp.70-71、2021年2月、共著

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（B）「知識」の再配置と実践—東北の巫者と寺院をめぐって—（研究代表者）2020～2022年度
- 基盤研究（A）「障害の歴史性に関する学際統合研究—比較史的な日本観察—」（研究分担者）2019～2023年度

(7)共同研究、受託研究など

- 一般受託研究「野辺地町立歴史民俗資料館民俗展示」（研究代表者）2020年度
- 国際共同研究「日本における歴史文化研究拠点の構築」（共同研究者）2020年度

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 民俗調査報告書の作成

## 葉 山 茂

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 日高真吾、黄貞燕（編）『地域文化を活用する—地域振興、地域活性に果す役割』pp.99-108、2021年3月、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館日高真吾研究室
- 日高真吾（編）『継承される地域文化 災害復興から社会創発へ』pp.111-125、2021年3月、臨川書店

[総説・解説]

- 葉山茂、川村清志、小池淳一「食と地域文化—宮城県気仙沼の食文化」『特別展「復興を支える地域の文化—3・11から10年」』pp.129-131、2021年3月、共著
- 葉山茂「文化財レスキューを通して地域の暮らしを視る—尾形家通信記録の整理から」『月刊みんぱく』第45巻3号、pp.8-9、2021年3月、単著

(7)共同研究、受託研究など

- 葉山茂「市民とのインタラクションによる民俗映像の構築—宮城県気仙沼市を事例に—」日本民俗学会第72回年会、オンライン（youtube）、2020年10月3-11日、単独

## 片 岡 太 郎

(1)現在の研究テーマ

- 非破壊透視解析の開発とそれを用いた縄文漆工技術の体系化
- 水浸出土木製品の保存処理方法の開発
- 被災有機質文化財の簡便な応急処置方法の開発

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 片岡太郎、田坂里穂『獅子が沢のしし石の活用に係る保存科学的研究調査報告書』共著、2021年3月、黒石市教育委員会・弘前大学人文社会科学部文化財科学研究室

[論文]

- 相原淳一、上條信彦、片岡太郎、佐々木理「宮城県大崎市根岸遺跡6a層出土遺物の調査」『東北歴史博物館研究紀要』第22巻、pp.29-36、2021年3月、共著
- 上條信彦、小林和貴、片岡太郎、吉川純子、鈴木三男「古代における布生産 内田原・俎原遺跡における新知見を通じて」『長

野県考古学会誌』第160号、pp.194-218、2020年9月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 齋藤理寿、片岡太郎「Reflectance Transformation Imagingを使った考古資料の記録における再現性に関する研究」日本文化財科学会第37回大会、別府大学（オンライン）、2020年9月5-13日、共同

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（A）「石材構築文化財の保全のための3次元デジタルアーカイブの標準化の研究」（研究分担者）2020～2024年度
- 国際共同研究強化（B）「3Dデータを利用した東アジアにおける文化遺産の保存と活用」（研究分担者）2020～2024年度

(7)共同研究、受託研究など

- 国内共同研究「ししが沢のしし石の活用に係る保存科学的研究」（研究代表者）2019～2020年度

## 思想文芸講座

### 今井正浩

(1)現在の研究テーマ

- 西洋古典古代の歴史文化全般
- ヒッポクラテス、ガレノスに代表される古代ギリシア・ローマ期の医学者たちに関する研究
- アリストテレスの動物学に関する研究
- 古代ギリシア・ローマ期の動物の発生理論に関する研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 今井正浩「Redefining the Position for Praxagoras of Cos in the History of Ancient Greek Medicine and Philosophy」『人文社会科学論叢』第9号、pp.23-41、2020年8月、単著
- 今井正浩「Aristotle and Ancient Greek Physicians in the Debate about the Generation of a Human Being」『人文社会科学論叢』第10号、pp.57-72、2021年2月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 今井正浩「アリストテレスと古代ギリシアの医学者たち－ヒトの生殖発生をめぐる論争史の一局面－」日本科学史学会第67回年会、国土館大学、2020年5月30-31日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「動物の生殖発生をめぐる論争史を通してみた西洋古代の人間観の思想文化史的解明」（研究代表者）2019～2021

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 古典語（古典ギリシア語・ラテン語）の学習等に関するもの
- 西洋古典古代の歴史文化全般に関するもの

### 李 梁

(1)現在の研究テーマ

- 近世東アジア知識論の研究、漢訳西学書の研究、イエズス会の教育思想研究

(7)共同研究、受託研究など

- 国際共同研究「日本と西洋との相互認識に関する総合書物学的研究：キリシタン文学の発展と継承」（研究分担者）、2014～2020年度

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 地域の歴史文化、伝統産業の掘り起しと再活用、地域における歴史的、文化的景観の再評価
- 国際化時代における地域の備えとその展望

### 泉谷安規

(1)現在の研究テーマ

- ジョルジュ・バタイユ、シュルレアリスム

(4)学外集中講義など

- 出張講義「『星の王子さま』とその世界」、青森県立木造高等学校、2020年10月20日、Zoomでの実施。

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- ヨーロッパ、とくにフランスと北東北や青森との歴史的・文化的関連性について
- 日本語の中のフランス語

(10)今年度中に行う予定のセミナー・シンポジウム・講演会などの予定

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 学会：令和3年度（2021年度）日本フランス語フランス文学会東北支部大会、弘前大学主催、（開催日未定）。
- 講演：「文学作品のなかに人間の危機を読む——アルベール・カミュ『ペスト』を例にして」、弘前大学人文社会科学部国際講座2021、（開催日未定）。

## 尾崎 名津子

(1)現在の研究テーマ

- 日本近現代文学、出版メディア、検閲研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 尾崎名津子「鎌倉文庫の単行本出版目録」『跨境／日本語文学研究』第11号、pp.244-260、単著、2020年12月
- 尾崎名津子「深浦円覚寺二六世海浦義観と近代の出版」『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第3号、pp.37-46、単著、2021年2月
- 尾崎名津子「敗戦直後の青森県内の言説状況－占領期の『月刊東奥』と石坂洋次郎の役割－」『地域未来創生センタージャーナル』第7号、pp.23-30、単著、2021年2月
- 尾崎名津子、大原祐治「メリーランド大学ゴードン・W・ブランゲ文庫所蔵・坂口安吾『二流の人』（九州書房版）関連資料に見る本文生成の過程」『昭和文学研究』第82号、pp.120-132、共著、2021年3月

[その他、書評]

- 尾崎名津子「織田作之助の創作方法に迫る 斎藤理生著『小説家、織田作之助』」『図書新聞』第3446号、p.6、単著、2020年5月
- 尾崎名津子「類はたゆたう。波紋のように 朝井まかて著『類』」『週刊読書人』第3368号、p.5、単著、2020年1月

[その他、解題]

- 尾崎名津子「【18】日本開化小史」『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』第7号、pp.103-108、単著、2021年3月
- 尾崎名津子「【7】深浦十六景小記」、「【8】深浦地方沿革志」、「【9】陸奥津軽深浦地方沿革志」、「【10】陸奥津軽深浦地方沿革誌」、「【11】増補陸奥津軽深浦沿革誌」、「【12】陸奥津軽深浦沿革誌」、「【13】深浦沿革誌寄贈配賦控」、「【14】深浦沿革誌発兌諸費控」、「【15】修験安心義鈔草稿上」、「【16】修験安心義鈔草稿下」、「【17】修験安心義鈔予約広告」、「【18】修験安心義鈔全」、「【19】修験安心義鈔上」、「【20】修験安心義鈔下」、「【21】修験安心義鈔版權登録証」『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第3号、pp.141-168、単著、2021年2月

[その他、会議報告]

- 尾崎名津子、羽渕一代、亀谷学、新永悠人、アラステア・バトラー、ジョシュア・ソロモン、アンソニー・ラウシュ「地方から公共性を問い直す－ローカルメディアを基点として」『地域未来創生センタージャーナル』第7号、pp.85-88、共著、2021年2月

[その他、エッセイ等]

- 尾崎名津子「注目の学部・学科第49回 日本文学●教育」『Guideline（河合塾）』、pp.56-57、単著、2020年4月
- 尾崎名津子「発信学都ひろさき114 アメリカで日本文学研究を考える」『月刊『弘前』』第42巻4号、p.55、単著、2020年4月
- 尾崎名津子「占領期の北海道における出版ブーム－鎌倉文庫北海道支社の活動－」『いづみ通信』第45号、pp.15-16、単著、2020年9月
- 尾崎名津子「アンソロジー編纂の可能性『織田作之助女性小説セレクション 怖るべき女』（春陽堂）を編集して」『日本近代文学会東北支部会報』第60・61号、pp.11-15、単著、2020年12月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 尾崎名津子「海浦義観と津軽の近代」2020年度深浦円覚寺所蔵古典籍保存調査プロジェクト成果報告会、単独、オンライン、2020年11月1日
- 尾崎名津子「東奥義塾高校図書館蔵 田口卯吉『日本開化小史』について」2020年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、単独、オンライン、2020年12月13日
- 尾崎名津子「まぼろしとまやかしー津島佑子「半減期を祝って」と岡田利規「地面と床」が描く〈疎開〉ー」日本近代文学会東北支部2020年度冬季大会、単独、オンライン、2020年12月12日

[講演]

- 尾崎名津子「占領期の『月刊東奥』から見る青森の戦後」地域未来創生塾@中央公民館、オンライン、2020年12月23日、単独

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究「占領期（1945-1949）の単行本検閲の実態—出版社鎌倉文庫を起点として」（研究代表者）、2018～2021年度
- 基盤研究（C）「日本的ファンシーをめぐる1970年代の女性文化再編の研究—サンリオ出版を中心に」（研究分担者）、2020～2022年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター・センタープロジェクト（課題名：地方から公共性を問い直す——ローカルメディアを基点として）「地方におけるメディアの受容と公共圏の変容」弘前大学、2021年1月23日

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 地方メディアと文化の関わり
- 青森県ゆかりの作家・文筆家について

(10)今年度中に行う予定のセミナー・シンポジウム・講演会などの予定

- 弘前大学人文社会科学部国際公開講座2021「日本を知り、世界を知る」（2021年11月3日開催予定）

## 原 克 昭

(1)現在の研究テーマ

- 日本思想史、中近世期の神仏習合思想を基調とする宗教文芸、神話注釈の研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 名古屋大学人類文化遺産テキスト学術研究センター（監修）、阿部泰郎・大東敬明（編）、阿部泰郎・木下智雄・佐藤隆彦・大東敬明・原克昭（分担執筆）『中世神道資料集』（真福寺善本叢刊：第三期第4巻）、pp.5-16、521-526、559-562、単著、2020年10月、臨川書店
- 原克昭（監修）『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第3集、共著・監修、2021年2月、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター・深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト

[その他]

- 原克昭「中世日本紀」日本思想史事典編纂委員会編『日本思想史事典』、pp.308-309、単著、丸善出版
- 原克昭「深浦円覚寺所蔵《神道関係資料》簡記——津軽における“もうひとつの宗教文化圏”の位相——」『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第3集、pp.31-36、単著、2021年2月
- 原克昭「三元十八神道次第・神道護摩私大事・両部習合灌頂次第・御流神道伝授開書附灌頂見聞記」『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第3集、pp.125-140、単著、2021年2月
- 原克昭「大星相伝聞書」『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録』第7集、pp.119-124、単著、2021年3月
- 原克昭「コラム：盤上遊戯」小峯和明編『東アジアに共有される文学世界—東アジアの文学圏』、pp.106-110、単著、文学通信

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 原克昭「宗教環境をめぐる「知識」の射程——神道思想史研究からのアプローチ——」「知識」の再配置と実践・第1回研究会、単独、青森県立郷土館、2020年9月27日
- 原克昭「中近世と近代をつなぐ宗教資料と知の位相——《神道関係資料》を中心に——」2020年度深浦円覚寺古典籍保存

調査プロジェクト成果報告会、単独、弘前大学（オンライン）、2020年11月1日

- 原克昭「東奥義塾高校図書館蔵日本思想史関係典籍について——《山鹿素行学》の世界～津軽における山鹿関係資料群の課題と展望——」2020年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、単独、弘前大学、2020年12月13日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (B)「『知識』の再配置と実践——東北の巫者と寺院をめぐって——」(研究分担者)、2020～2022年度
- 基盤研究 (C)「中世後期から近世前期における吉田家の学問体系と神話注釈に関する神道思想史研究」(研究代表者)、2020～2023年度
- 青森学術文化振興財団助成金「深浦町における歴史文化資源調査とその活用による津軽青森地域振興事業」(代表者)、2020年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 2020年度深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会（第3回深浦フォーラム）、弘前大学（オンライン）、2020年11月1日

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 宗教文芸を中心とする古典籍資料調査および報告書作成

(10)今年度中に行う予定のセミナー・シンポジウム・講演会などの予定

- 2021年度深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会（第4回深浦フォーラム）、弘前大学、2021年9月26日開催予定
- 2021年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、弘前大学、2021年11月21日開催予定

## 横 地 徳 広

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 横地徳広「カント主義者クラゼヴィッツ」『人文社会科学論叢』第10号、2020年10月、単著
- 横地徳広「カテゴリー、純粹直観、図式:全体性の諸相にそくして」『東北大学哲学研究会編『思索』』第53号、2020年12月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 横地徳広「クラゼヴィッツ『戦争論』とプラグマティックなホーリズム」戦略研究学会第18回大会、オンライン、2020年11月28日、単独

## 畑 中 杏 美

(1)現在の研究テーマ

- 20世紀英文学における老いと笑いの表象
- Muriel Sparkの小説における〈悪〉と〈罪〉

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 畑中杏美「彼女の記憶の記録: William Trevor, 'Matilda's England' における老いの意識」『人文社会科学論叢』第10号、pp.93-111、2021年2月、単著
- 畑中杏美「『よき便り』をはこぶ機関車: ウィルバート・オードリー作『汽車のえほん』を読み直す」『Ferris Research Papers』第11号、pp.41-61、2021年3月、単著

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究 (B)「20世紀イギリス小説における老いと笑いの表象」(研究代表者)、2018～2021年度

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 英語コミュニケーション

## コミュニケーション講座

### 木村宣美

(1)現在の研究テーマ

- 英語学（統語論・意味論）:

右方移動現象と併合/線形化のメカニズム；述語（動詞句）削除に対する2種類のbeに基づく分析；文体的倒置/there構文/as挿入節/比較節の節構造

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 木村宣美「動詞としての現在分詞 being」『人文社会科学論叢』第10号、pp.35-55、2021年2月、単著

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「2種類の助動詞倒置文の基底構造と派生メカニズムの解明」（研究代表者）2020-2022年度

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 英語の構造や意味の観点から英文法の基礎を学ぶ

### 山本秀樹

(1)現在の研究テーマ

- 地理情報システム（GIS）による世界諸言語の言語類型地理論的研究、世界諸言語の言語構造地図の作製および分析、言語類型論と言語普遍性研究、現生人類と人類言語の系統に関する研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 山本秀樹「日本語の語順と言語類型論」窪園晴夫、野田尚史他編『日本語研究と言語理論から見た言語類型論』pp.125-150、共著、2021年2月、開拓社、

(7)共同研究、受託研究など

- 国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」（研究共同員）2020～2021年度

### 熊野真規子

(1)現在の研究テーマ

- 外国語教育（フランス語教育、複言語・複文化教育、サービスマーケティング）

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 熊野真規子「2019年度「弘前×フランス」プロジェクトー負の経験を推進力に変える実践」『RENCONTRES』第34巻、pp.65-69、単著、2020年7月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 熊野真規子「2020年度「弘前×フランス」プロジェクトー学生はコロナ禍をどう乗り越えようとしたか」Rencontres Pédagogiques du Kansai 2021（第35回関西フランス語教育研究会）、単独、オンライン、2021年3月27日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「「地域への目覚め」を介した日本型複言語・複文化教育モデルと複文化教育交流実験検証」（研究代表者）、2020～2023年度

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 外国語教育（フランス語教育、複言語複文化教育）によるまちづくり、教育ツーリズム

### 小野寺 進

(1)現在の研究テーマ

- 英文学、イギリス文化論、物語理論、英語多読、英語教育

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 小野寺 進「*The Buried Giant*における船頭の語りを読み解く—記憶と忘却の観点から」『人文社会科学論叢』第10号、pp.1-10、2021年2月、単著

(4)学外集中講義など

- 青森公立大学（非常勤講師）
- 青森南高等学校模擬授業（10月30日）

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 英語コミュニケーション

## 堀 智 弘

(1)現在の研究テーマ

- 十九世紀アメリカ社会の世俗化と物語形式の発展についての研究、アフリカ系アメリカ人文学

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 堀 智弘「フレデリック・ダグラス著『私の隷属と私の自由』（一八五五年）第七章～第八章」『人文社会科学論叢』第9号、pp.220-232、2020年8月、単著

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「ジャクソニアン・デモクラシー期の米国社会の世俗化・市場化と物語形式の変容」（研究代表者）、2018～2020年度

## 楊 天 曦

## 新 永 悠 人

(1)現在の研究テーマ

- 日流諸方言の総合的文法記述

(2)著書、論文、その他

[著書]

- Yuto Niinaga, Marc Miyake, Volker Rybatzki, and other 50 people, *The Oxford guide to the transeurasian languages*, pp.196-224, May 2020, Oxford University Press

[論文]

- 新永悠人「北琉球奄美大島湯湾方言の名詞・代名詞複数形の機能とその通言語的な位置づけ」『言語研究』第157巻、pp.71-112、2020年9月、単著（査読有り）

[その他]

- 新永 悠人「第20回 国立国語研究所 所長賞（若手研究者奨励賞）」国立国語研究所、2020年6月9日

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Yuto Niinaga “Inclusory constructions in Yuwan (Amami, Northern Ryukyuan)” The First Conference on the Endangered Languages of East Asia, Venice (On-line presentation), 2nd-3rd September 2020
- 新永悠人「北琉球奄美大島湯湾方言における主語が2人の場合の尊敬動詞の使用条件」2020年度沖縄言語研究センター定例研究会、沖縄国際大学（オンライン発表）、2020年12月5日

[講演]

- 新永悠人「奄美と青森の意外な縁 ～笹森儀助と奄美方言～」、第9回地域未来創生塾、弘前市立中央公民館（オンライン発表）、2021年2月10日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究「奄美大島宇検村内の隣接する多地点方言間の体系的差異の解明」（研究代表者）、2018年度-2021年度

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 方言の調査記述・記録保存

(10)今年度中に行う予定のセミナー・シンポジウム・講演会などの予定

- 新永悠人「『島』から見える『世界』」、鹿児島県宇検村内中学校第1回集合学習、宇検村立田検中学校（オンライン発表）、2021年6月2日

## 国際社会講座

### 城 本 る み

(1)現在の研究テーマ

- ハンセン病問題、中国・台湾の高齢者福祉

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「地域特性を視座とする新たな提言のためのハンセン病療養所将来構想の比較研究」（研究代表者）2019～2022年度

### 荷 見 守 義

(1)現在の研究テーマ

- 中国明代史・東アジア近世史

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 荷見守義「明代巡閱御史の創始について」『人文研紀要』第97号、pp.125-156、2020年9月、単著

[総説・解説]

- 荷見守義「歴朝紀政綱目」『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録』第7巻、pp.78-82、2021年3月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 荷見守義「東奥義塾高校図書館所蔵明代関係典籍について」2020年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、弘前大学人文社会科学部、2020年12月13日

- 荷見守義「明代巡按直隸をめぐる官僚統治の構造と動態」2020年度白東史学会年次大会、オンライン、2020年12月5日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「弘前藩藩校「稽古館」旧蔵本の悉皆調査による近世津軽における知識集成の解明」（研究分担者）、2018～2021年度

(7)共同研究、受託研究など

- 「アフロ・ユーラシア大陸における都市と国家の歴史」（妹尾達彦代表 中央大学人文科学研究所）

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 2020年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、弘前大学人文社会科学部、2020年12月13日

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 中国史や現代中国事情に関すること

### 亀 谷 学

(1)現在の研究テーマ

- イスラーム世界におけるカリフ制と統治システム
- イスラーム世界における貨幣

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 三浦 徹、亀谷 学、菊地重仁、大月康弘、妹尾達彦『《歴史の転換期》3. 750年普遍世界の鼎立』、2020年8月、山川出版社、共著

[総説・解説]

- 亀谷 学「環海異聞」『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録第七集』pp.115-118、2021年3月

[その他]

- 亀谷 学、大塚 修、松本隆志「イブン・ワーディフ・ヤアクービー著『歴史』訳注（2）」『人文社会科学論叢』第10号、

pp.113-154、2021年2月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「ファータイマ朝カリフ概念の研究によるカリフ史の再構築」(研究代表者)、2018～2020年度

(9)私たちがお手伝いできること (地域との連携が可能なテーマ)

- 北東北とイスラーム

## 澤田真一

(1)現在の研究テーマ

- ニュージーランド文学、マオリ文学、ポストコロニアル文学

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 澤田真一「『父なるもの』の埋葬—ウィティ・イヒマエラの『タンギ』再考—」『日本ニュージーランド学会誌』第27巻、pp.20-31、2020年11月、単著 (査読有り)

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「差異の受容—ニュージーランド文学から見たキリスト教とマオリ宗教の弁証法的融合—」(研究代表者) 2019～2021年度

## 中村武司

(1)現在の研究テーマ

- 西洋史、イギリス史・イギリス帝国史、近代ヨーロッパ史

(2)著書、論文、その他

[著書]

- ジョン・ダーウィン著 (秋田茂、中村武司 他訳)『ティムール以後：世界帝国の興亡1400-2000年 (下)』2020年11月、国書刊行会
- ジョン・ダーウィン著 (秋田茂、中村武司 他訳)『ティムール以後：世界帝国の興亡1400-2000年 (上)』2020年11月、国書刊行会

[論文]

- 中村武司「長い18世紀イギリスにおける軍人・議会・選挙区 (1)」『人文社会科学論叢』第10号、pp.11-33、2021年2月、単著

[総説・解説]

- 中村武司「〈書評〉板倉孝信著『ポスト財政=軍事国家としての近代英国』」『図書新聞』第3463号、p.5、2020年9月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 中村武司「財政海軍国家論の射程と限界」第70回日本西洋史学会大会、オンライン、2020年12月12日
- 中村武司、薩摩真介、辻本論、石橋悠人、板倉孝信、古谷大輔「財政軍事国家論を再考する」第70回日本西洋史学会大会、オンライン、2020年12月12日
- 中村武司「近代イギリスにおけるパブリック・ミーティング研究の現状」第70回日本西洋史学会大会、オンライン、2020年12月12日
- 中村武司「18世紀イギリス帝国史と財政軍事国家論」「イギリス本国史・帝国史の統合と財政軍事国家論の再考」第1回研究会、オンライン、2021年3月16日

(4)学外集中講義など

- 集中講義「西洋史」、ノースアジア大学経済学部、2021年2月16日～19日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「イギリス本国史・帝国史の統合と財政軍事国家論の再考」(研究代表者) 2020～2022年度

(9)私たちがお手伝いできること (地域との連携が可能なテーマ)

- 近代弘前と西洋文化との関係 (軍隊、協会など)

## BUTLER ALASTAIR JAMES

(2)著書、論文、その他

[論文]

- Alastair Butler “From discourse to logic with Stanford CoreNLP and Treebank Semantics” *New Frontiers in Artificial Intelligence. JSAI-isAI 2019*, vol.12331, pp.182-196, September 2020, 単著（査読有り）
- Koichi Takeuchi and Alastair Butler and Iku Nagasaki and Takuya Okamura and Prashant Pardeshi “Constructing Web-Accessible Semantic Role Labels and Frames for Japanese as Additions to the NPCMJ Parsed Corpus” *Proceedings of the 12th Language Resources and Evaluation Conference*, pp.3153-3161, May 2020, 共著（査読有り）

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Alastair Butler and Iku Nagasaki 「検索インターフェース (NPCMJ Development Interfaces)」 統語・意味解析コーパス (NPCMJ) チュートリアル、オンライン、2021年3月13日、共同
- Alastair Butler “Knowledge acquisition from natural language with Treebank Semantics and Flora-2” *Logic and Engineering of Natural Language Semantics 17 (LENLS17)*, Online, 15th November 2020, 単独
- 吉本啓、アラステアバトラー、ブラシャントバルデシ 「日本語ツリーバンクからの動詞格フレームの抽出」 言語処理学会第27回年次大会 (NLP2021)、オンライン、2021年3月16日、共同
- 竹内孔一、バトラーアラステア、長崎郁、バルデシブラシャント 「NPCMJへのPropBank形式の意味役割と概念フレームの付与の進捗報告」 言語処理学会第27回年次大会 (NLP2021)、オンライン、2021年3月16日、共同

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C) 「Developing a program for language teaching with parsed corpora」(研究代表者) 2019~2021年度
- 基盤研究 (C) 「シベリア先住民族諸言語のテキストコーパス構築と文法及びその構造的変化に関する研究」(研究分担者) 2019~2022年度

## 林 明

(1)現在の研究テーマ

- ガンディー、サルボダヤ運動、スリランカの民族問題

(2)著書、論文、その他

[論文]

- Akira Hayashi 「Subhas Chandra Bose, Gandhi and Japan」『Gandhi A Global Perspective』 pp.507-511、単著、2020年12月
- Akira Hayashi 「Fujii Guruji and Gandhi」『Gandhi A Global Perspective』 pp.608-611、単著、2020年12月

[総説・解説]

- 林明 「ガンディー生誕150周年記念企画に関連した林明先生の論文の概要」 東京大学インド事務所公式ウェブサイト、単著、2021年2月
- Akira Hayashi 「The summary of Dr. Akira Hayashi's papers related to 150th Birth Anniversary of Mahatma Gandhi」 The University of Tokyo INDIA OFFICE official website、単著、2021年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 林明 「Imphal and Netaji – Sir Subhas Chandra Bose」 「インパール」研究会、単独、日本経済新聞本社、2020年6月20日
- 林明 「日本とインドーガンディー、藤井日達、インパール作戦ー」 千葉黎明高等学校校内ガイダンス、単独、千葉黎明高等学校、2020年11月6日

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 北東北とインド・スリランカ

## FUHRT VOLKER MICHAEL

(1)現在の研究テーマ

- 日本と東アジアにおける歴史認識、ナショナリズム、ポピュリズム、平和運動

## 情報行動講座

### 羽 淵 一 代

#### (1)現在の研究テーマ

- 親密性と近代化
- 高度情報化とメディア文化の成熟

#### (2)著書、論文、その他

##### [論文]

- 羽淵一代「ソーシャルメディアの利用と友人関係満足度」『人文社会科学論叢』第10号、pp.201-217、2021年2月、単著
- 成田凌、羽淵一代「「地方」の若者の定住意向とその要因に関する検討－「青森20-30代住民意識調査」の分析から－」『地域未来創生センタージャーナル』第7号、pp.49-60、2021年2月、共著

#### (3)研究発表、講演

##### [研究発表]

- Eriko KIMURA, Ichiyo HABUCHI “Romantic Behavior of Young People Living in Rural Japan: Network and Trans- Locality” IV ISA Forum of Sociology, Online (Porto Alegre), 23th-28th February 2021

#### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (B)「トランスローカリティの社会学：条件不利地域と地方中枢拠点都市の生活とキャリア」(研究代表者)、2018～2021年度
- 基盤研究 (A)「現代若者の再帰的ライフスタイルの諸類型とその成立条件の解明」(研究分担者)、2019～2023年度
- 基盤研究 (B)「「知識」の再配置と実践－東北の巫者と寺院をめぐる－」(研究分担者)、2020～2022年度
- 基盤研究 (B)「モバイル化社会の実態解明と将来構想に関する社会学的実証研究」(研究分担者)、2020～2022年度
- 基盤研究 (B)「パートナーの親密関係の変容に関する実証研究」(研究分担者)、2020～2023年度

#### (9)私たちがお手伝いできること (地域との連携が可能なテーマ)

- 若者の社会参加に関わる知識提供
- メディア文化に関する知識提供
- 少子化対策に関わる調査研究・データと知識の提供

### 花 田 真 一

#### (2)著書、論文、その他

##### [論文]

- Hiroyuki KIKUSATO, Yu FUJIMOTO, Shin-ichi HANADA, and others 「Electric Vehicle Charging Management Using Auction Mechanism for Reducing PV Curtailment in Distribution Systems」『IEEE Transactions on Sustainable Energy』11巻3号、pp.1394-1403、2020年7月、共著
- Young-Jun LEE, Shinichi HANADA 「An Examination of the Self-Evaluations Over Time of the 3.11 Tsunami Survivors Regarding Their Post-Disaster Recovery」『IDRiM Journal』10巻1号、2020年8月、共著
- 花田真一「小売電力市場の自由化が都市ガス市場に与えた影響についての考察」『弘前大学経済研究』43巻、2020年12月、単著

##### [その他]

- 福田進治、花田真一「広域連携による自治体新電力設立の可能性に関する調査報告」『人文社会科学論叢』9巻、pp.129-149、2020年8月、共著
- 花田真一「復興感と復興時期に影響を与える要因の分析」『令和2年度野田村の皆さまの暮らしとお仕事に関するアンケート調査報告書』、pp.29-36、2021年3月、単著
- 李永俊、花田真一、永田素彦、山口恵子、牧田大輝「災害復興感の時系列的変化とその決定要因 被災地住民アンケート調査を用いて」『地域未来創生センタージャーナル』7巻、2021年2月、共著

#### (3)研究発表、講演

##### [研究発表]

- 花田真一、高橋雄、久恒整、木村順一「Web調査の地域差に関する研究－東京と青森を比較して－」日本経済政策学会全国大会、2020年5月23-24日、共同

- 花田真一、李永俊「小中高の地域体験学習が地元愛着と就職地選択行動に与える影響」日本地域経済学会全国大会、2020年12月6日、共同
  - 花田真一、李永俊「小中高の地域体験学習が地元愛着と就職地選択行動に与える影響」日本地域経済学会関東支部研究会、オンライン、2020年11月22日、共同
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 基盤研究 (C)「地域志向教育が地域愛着と就職地選択行動に及ぼす影響」(研究分担者) 2020~2022年度
- (7)共同研究、受託研究など
- 受託研究「第2次つがる市総合計画後期基本計画策定支援」(代表者)、2020年度(つがる市)
  - 共同研究「家族観の国際比較-経済学と哲学および文化人類学によるアプローチ」(分担者)、2020年度(金沢星稜大学)
  - 共同研究「マーケティング調査の理論と実務の接続による教育面及び実践面の効果の研究」(代表者) 2020年度~2021年度(株式会社オノフ)
  - 共同研究「アンケート調査データの新たな活用に関する調査研究」(代表者) 2019年度~2020年度(アダプティブ株式会社)
- (9)私たちがお手伝いできること(地域との連携が可能なテーマ)
- データを用いた地域に関する定量的評価

## 古村 健太郎

### (1)現在の研究テーマ

- 親密な対人関係の維持と崩壊
- アダルト・アタッチメント
- 恋人間の暴力とその予防のための教育プログラム開発
- 行動インサイトを実践するコミュニティ形成

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 古村健太郎(2020)、対人関係 松井豊・宮本聡介(編)、新しい社会心理学のエッセンス—心が解き明かす個人と社会・集団・家族のかかわり、pp.94-104、福村出版

#### [論文]

- 古村健太郎、戸田弘二「助け合いとしてのアタッチメント」『心理学評論』63巻3号、pp.263-280、2021年2月、共著
- 古村健太郎、山崎敬太「遠距離恋愛において接近コミットメントの緩衝効果は生じるか」『パーソナリティ研究』29巻3号、pp.137-140、2020年12月、共著

#### [その他]

- Ryan, M. R., Ryan, W. S., & Di Domenico, S. I. 古村健太郎(訳)(2020)、自己決定理論と内発的動機づけにおける報酬の影響—デシ(1971)の研究・再入門、中村菜々子・古谷嘉一郎(監訳)、パーソナリティと個人差の心理学再入門—ブレイクスルーを生んだ14の研究(pp.181-202)、新曜社

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- Ryosuke Asano, Yuji Kanemasa, & Kentaro Komura. Having a happy spouse is related to greater happiness.」The Society for Personality and Social Psychology、オンライン、2021年2月9-13日、共同
- Toshihiko Souma, Kentaro Komura, Shoji Sugiyama, Tamiko Yamanaka. How participating in a program on intimate partner violence moderates prior victimization's impact on assessments of the relationship. The Society for Personality and Social Psychology's Annual Convention 2021、オンライン、2021年2月9-13日、共同
- 松井豊、古村健太郎「マッチングアプリの利用とリスクある性交との関連—成人のマッチングアプリ利用に関する研究(1)—」日本心理学会第84回大会、オンライン、2020年9月8-11月2日、共同
- 松井豊、古村健太郎「成人のマッチングアプリ利用の背景—成人のマッチングアプリ利用に関する研究(2)—」日本心理学会第84回大会、オンライン、2020年9月8-11月2日、共同
- 浅野良輔、古村健太郎、金政祐司「あなたが幸せなら私も幸せ—夫婦関係における主観的幸福感の相互影響—」日本心理学会第84回大会、オンライン、2020年9月8-11月2日、共同
- 金政祐司、古村健太郎、浅野良輔、荒井崇史「愛着不安はDaVやDVの先行要因となり得るのか?—2つの親密な関係の縦断調査による検討—」日本心理学会第84回大会、オンライン、2020年9月8-11月2日、共同
- 相馬敏彦、古村健太郎、杉山詔二、山中多民子「DVの予防プログラムはどのように関係性に影響するのか—交際中の受講

者に対するパネルデータを用いた効果検証（ポスター）」日本心理学会第84回大会、オンライン、2020年9月8-11月2日、共同

- 相馬敏彦、杉山詔二、古村健太郎、山中多民子、相樂直子、白岩祐子「「DVを防ぐ」とはどういうことか？：一次予防プログラムの深化に向けて」日本心理学会第84回大会、オンライン、2020年9月8-11月2日、共同
- 金子迪大、中川威、古村健太郎、高橋英之、島井哲志「ダイナミックなポジティブ心理学」日本心理学会第84回大会、オンライン、2020年9月8-11月2日、共同
- 村上達也、古村健太郎、戸田弘二「成人期における複数のアタッチメント対象－アタッチメント機能尺度の作成－」日本パーソナリティ心理学会第29回大会、オンライン、2020年9月11-12日、共同
- 古村健太郎、竹原彩乃「大学新入生のアタッチメント対象の変化」日本パーソナリティ心理学会第29回大会、オンライン、2020年9月11-12日、共同
- 古村健太郎、戸田弘二、村上達也「恋愛関係崩壊後にアタッチメント・スタイルは変化するか」日本教育心理学会第62回総会、オンライン、2020年9月19-21日、共同

[講演]

- 弘前中央高等学校出張講義（2020年9月17日）
- 令和2年度ひとにやさしい社会推進セミナー「絆か柵（しがらみ）か—身近な人間関係の二面性—」（2020年11月11日）

(4)学外集中講義など

- 秋田大学「心理学の世界－身近な対人関係の維持と崩壊」（2020年9月14日～17日）
- 五所川原市立いずみ小学校「本当は困っている人がやってもらいたい、気づかないとできない親切図鑑」を作ろう（2020年1月29日）
- しもきたベンチャープランコンテスト最終審査会 審査委員（2021年3月28日）

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究（B）「実行意図の形成による恋人間暴力への予防的介入とスマートフォン・アプリの開発」（研究代表者）2019年度～2023年度
- 研究活動スタート支援「webメールを用いた恋人間暴力の予防的介入プログラムの開発」（研究代表者）2016年度～
- 若手研究（B）「DVのエスカレートを防ぐ：関係性への予防科学的アプローチ」（研究代表者）2019年度～2024年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

[それ以外のもの]

- マツネレッツガルド～ツガルペンデネバトチゲルメヘヤッコ（2020年11月16日～19日）
- これも弘前～学生から見た街や人（2020年2月6日）
- マツネレッツガルド～津軽酒でだぐつぐ～（2021年3月12日～13日）

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 心理学を活用した教育プログラムの計画、実践、評価
- 社会心理学の知見を活用したプログラム評価

## 曾 我 亨

(1)現在の研究テーマ

- 東アフリカ牧畜社会における気候変動と紛争
- 東アフリカにおける難民の生存を可能にした新たな経済活動
- 人類の進化史的基盤に関する研究

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「アフリカ牧畜社会における民族紛争への文化進化論的接近」（研究代表者）2018年度～2023年度

(7)共同研究、受託研究など

- 国内共同研究「「人類社会の進化史的基盤研究（1）」プロジェクト研究会」（研究代表者）2020年度
- 国内共同研究「「人類社会の進化史的基盤研究（2）」プロジェクト研究会」（研究代表者）2020年度

## 増 山 篤

(1)現在の研究テーマ

- 地理的な近接性（アクセシビリティ）に関する理論的・実証的研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 増山篤「段階的意思決定を考慮したログサム型時空間アクセシビリティ指標」『都市計画報告集』19巻、pp.359-365、2021年3月、単著

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究 (B)「等質地域への地域区分を行う空間分析法の開発」(研究代表者) 2009年~2011年度

## 大橋 忠宏

(1)現在の研究テーマ

- 空港や路線の特性を考慮した国内及び国際航空市場特性の検討
- 弘前市を含む津軽地方における持続可能な公共交通サービスの設計

(9)私たちがお手伝いできること (地域との連携が可能なテーマ)

- 弘前を含む津軽地方における持続可能な公共交通サービスの設計
- 中心市街地活性化のためのシームレスな交通サービスの設計

## 内海 淳

(1)現在の研究テーマ

- XML規格を用いた文書処理

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 内海淳「コンピュータを用いたTOEIC模擬試験の実施」教育改革ICT戦略大会、東京アルカディア市ヶ谷、2020年9月3-5日、単独

## 日比野 愛子

(1)現在の研究テーマ

- 先端科学技術の表象、社会的成立過程

(2)著書、論文、その他

[論文]

- Anna Middleton, Richard Milne et al. (including Aiko Hibino)「Global Public Perceptions of Genomic Data Sharing: What Shapes the Willingness to Donate DNA and Health Data?」『The American Journal of Human Genetics』107巻4号、pp.743-752、2020年10月、共著

[その他]

- Aiko Hibino, Fukushima Masato「The shadow theater of dueling modalities: A note on pandemic simulation」『EASST review (European Association for the Study of Science)』40巻1号、pp.16-21、2021年3月、共著
- 日比野愛子「感染症数理モデルの棲まう場所：日本と台湾の比較から」『UP』2020年8月、単著
- 日比野愛子「自己破壊する予言——感染症数理モデルの行方」『シドノス』2020年10月、単著

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 日比野愛子「生命らしきものがあふれる世界：ポストヒューマン・アクションリサーチ」質的心理学会第17回全国大会、2021年10月24日、単独

[講演]

- 日比野愛子「培養肉をめぐる消費者意識から考える社会受容形成への示唆」持続可能なフードシステムを支える新興技術勉強会、2021年8月4日、単独
- 日比野愛子「内なる他者との出逢いを支える：ゲーミング・シミュレーションを用いたコミュニケーションの可能性」弘前大学大学院保健学研究科リスクコミュニケーション教育部門講演会、2021年1月25日、単独
- 日比野愛子「数理モデルをめぐる社会・政治・メディアの混乱：感染症予測を事例に」I-URIC フロンティアコロキウム予測に関する研究会、2021年8月4日、単独
- 日比野愛子「予言の破壊と増殖」Innovative City Forum (アカデミーヒルズ)、2021年11月17日、単独

(7)共同研究、受託研究など

- 未来社会創造事業「三次元組織工学による次世代食肉生産技術の創出」(研究分担者) 2018年度～

## ビジネスマネジメント講座

### 加藤 恵吉

(1)現在の研究テーマ

- 国際税務、法人税法、自然栽培農業組織の研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 『New ベーシック税務会計〈企業課税編〉』五紘舎 1・2・8章、2020年5月

[論文]

- 加藤恵吉「減価償却資産の損金経理に関する法人税法上の問題点についての一考察」『地域社会研究科年報』第17号、pp.57-63、2021年3月

[総説・解説]

- 加藤恵吉、黄孝春、小杉雅俊、内藤周子、V.カーペンター「自然栽培法による農業の地域持続可能性を高めるための施策」『地域未来創生センタージャーナル』第7号、pp.63-67、2021年2月

(3)研究発表、講演

[講演]

- 加藤恵吉「弘前大学人文社会科学部自然栽培研究グループの活動紹介」(地域未来センター公開シンポジウム：自然栽培の可能性と地域づくり)、オンライン、2021年2月7日

(4)学外集中講義など

- 青森公立大学大学院博士前期課程「管理会計論特論」2020年度秋学期

(7)共同研究、受託研究など

- 日本会計研究学会特別委員会「税制が企業会計その他の企業行動に及ぼす影響に関する研究」委員

### 森 樹 男

(1)現在の研究テーマ

- 日系多国籍企業の地域統括本社制
- 北欧の地域活性化モデルと青森県
- 地方企業における商品開発とデザイン
- 観光ビジネスと地域活性化

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 大倉邦夫、森樹男、熊田憲、高島克史、林彦櫻「地域における社会的課題の解決と地域企業の役割に関する研究－青森県内の企業に着目して－」『地域未来創生センタージャーナル』第7号、pp.77-80、2021年2月
- 森樹男『弘大じょっぱり起業家塾2020 実施報告書』2021年3月、弘前大学
- 森樹男『弘前大学人文社会科学部ビジネス戦略実習 課題解決型学習と学生の主体的な学び－大学生のチャレンジ2020－報告書』2021年3月、弘前大学人文社会科学部

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 森樹男「弘前大学「弘前大学観光マイスター」「弘大じょっぱり起業家塾」の取り組み」サービス学会オンラインシンポジウム、2020年7月15日

[講演]

- 森樹男「ビジネス戦略実習2020年度の活動状況」キャリアの広場オンラインセミナー、2020年8月27日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究(C)「地域経済統合の後退が多国籍企業の組織に与える影響－欧州地域統括本社を中心に－」(研究代表者) 2019～2021年度

(7)共同研究、受託研究など

- 一般受託研究「津軽海峡交流圏形成のための人財育成事業」青森県庁（研究代表者）2019～2021年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 青森高等学校ドリーム講座「グローバル経済の終焉と一国至上主義・Brexit」、青森高校、2020年10月29日

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 新商品開発
- 観光人材育成

## 保田宗良

(1)現在の研究テーマ

- 医療サービス、介護サービスにおける顧客満足度向上、事業者と利用者の価値共創の進め方について

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 保田宗良「イノベーションを包括した医療サービスの現状についての考察」『人文社会科学論叢』第9号、pp.99-107、単著、2020年8月
- 保田宗良「持続可能な医療、介護サービスの組織設計に関する論点の考察」『産業経済研究』第21号、pp.36-46、単著、2021年3月

[その他]

- 保田宗良「マーケティングの考え方について」『融合』No.32、pp.52-56、単著、2021年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 保田宗良「患者満足度の質的向上に関する研究動向についての考察」日本消費経済学会北海道・東北部会研究報告会、単独、オンライン、2020年7月4日
- 保田宗良「持続可能な医療サービスと組織設計についての考察」日本消費経済学会全国大会、単独、オンライン、2020年8月21-22日
- 保田宗良「持続可能な医療・介護サービスについての組織設計に関する考察」日本産業経済学会全国大会、単独、オンライン、2020年9月5日
- 保田宗良「三方良しを意図した介護サービスの実践に関する基礎考察」日本消費経済学会東日本大会、単独、オンライン、2021年2月28日
- 保田宗良「介護経営と組織イノベーションの論点整理」日本消費経済学会北海道・東北部会研究報告会、単独、オンライン、2021年3月27日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 文部科学省消費者教育委託事業「大学における消費者問題講義の実践モデル構築」（分担）令和2年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 消費者フォーラム in HIROSAKI、弘前大学、2021年1月23日

[それ以外のもの]

- 日本消費経済学会北海道・東北部会研究報告会、オンライン・配信元弘前大学、2021年3月27日

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 医療機関、介護施設のマーケティング戦略
- 消費者市民社会の構築を意図したまちづくり

## 大倉邦夫

(1)現在の研究テーマ

- 企業の社会的責任、社会的協働、ソーシャル・ビジネス、協働マネジャー

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 大倉邦夫、森樹男、熊田憲、高島克史、林彦櫻「地域における社会的課題の解決と地域企業の役割に関する研究－青森県内の企業に着目して－」『地域未来創生センタージャーナル』第7号、pp.77-80、共著、2021年3月

(3)研究発表、講演

[講演]

- 「協働による市民活動を進めていこう～人・組織を巻き込むことの重要性～」協働まちづくり講演会（弘前市市民協働課主催）、単独、ヒロロ、2021年2月23日

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- CSR（企業の社会的責任）経営
- ソーシャル・ビジネスの経営

## 熊 田 憲

(1)現在の研究テーマ

- 地域イノベーション、イノベーション

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 熊田憲、小杉雅俊「株式形態の投資型クラウドファンディングを活用した地域イノベーション創出に向けての考察と課題」『人文社会科学論叢』第9号、pp.109-119、2020年8月

[その他]

- 大倉邦夫、森樹男、熊田憲、高島克史、林彦櫻「地域における社会的課題の解決と地域企業の役割に関する研究－青森県内の企業に着目して－」『地域未来創生センタージャーナル』第7号、pp.61-64、2021年2月
- 熊田憲、小杉雅俊「地方自治体における組織間連携によるクラウドファンディングの試み」産学連携学会第18回大会講演予稿集、pp.163-164（2020）

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 公益財団法人石井記念証券研究振興財団・令和元年度研究助成、小杉雅俊・熊田憲「クラウドファンディングを活用した地域イノベーション創出」（課題番号411）、共同研究者、令和元年～令和2年度

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 地域イノベーションの研究、イノベーション人材の育成

## 小 杉 雅 俊

(1)現在の研究テーマ

- イギリスにおける品質原価計算
- プロセスコストモデルの実務適用と展開
- 農福連携で機能するマネジメント・コントロール・システムについての事例研究
- 地域におけるクラウドファンディングの活用

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 小杉雅俊「1980年代の英国羊毛産業による品質コストマネジメント：NEDOによるBS6143適用の実証プロジェクト」『産業経理』一般財団法人産業経理協会、第80巻4号、pp.161-171、2021年1月
- 小杉雅俊「イギリスにおける品質コスト最小化に向けた取り組み：1980年代初頭の圧力容器・配管製作現場における試験的研究に基づく考察」『人文社会科学論叢』弘前大学人文社会科学部、第10号、p.219-235、2021年2月
- 熊田憲、小杉雅俊「株式形態の投資型クラウドファンディングを活用した地域イノベーション創出に向けての考察と課題」『人文社会科学論叢』弘前大学人文社会科学部、第9号、pp.109-119、2020年8月

[その他]

- 加藤恵吉、黄孝春、小杉雅俊、内藤周子、V.カーペンター「自然栽培法による農業の地域持続可能性を高めるための施策」『地域未来創生センタージャーナル』弘前大学人文社会科学部、第7号、pp.63-66、2021年2月

(4)学外集中講義など

- 地域未来創生塾@中央公民館「ストラテジーと管理会計」2021年2月3日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 日本学術振興会科学研究費助成事業（若手研究）「農福連携による農作物品質向上のためのマネジメント・コントロール・システムの解明」（研究代表者）、2019-2021年度
- 公益財団法人石井記念証券研究振興財団研究助成「クラウドファンディングを活用した地域イノベーション創出」（研究代表者）、熊田憲先生との共同研究、2019-2020年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 令和2年度地域未来創生センターオンライン公開シンポジウム「自然栽培の可能性と地域づくり」（司会担当）、2021年2月7日

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 品質原価計算
- プロセスコストモデル

## 高 島 克 史

(1)現在の研究テーマ

- 経営戦略論、ベンチャー企業論

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 大倉邦夫、高島克史、森樹男、熊田憲、林彦櫻「地域における社会的課題の解決と地域企業の役割に関する研究－青森県内の企業に着目して－」『地域未来創生センタージャーナル』第7号、pp.77-80、2021年2月

[講演資料等]

- 高島克史「アイデアの考え方」『弘前大学人文社会科学部オンラインキャンパスガイド』pp.17-18、2020年8月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「起業機会認識・実現に対する起業家ネットワークの構築・解体プロセスとその影響」（件空代表者）2020～2022年度

## 内 藤 周 子

(1)現在の研究テーマ

- 会計学、財務会計、IFRS、国際財務報告、公会計、農業会計

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 内藤周子「1. 弘前大学・特別経営セミナー概要 公開特別経営セミナー「自然栽培と管理会計」」『メルコ管理会計研究』12-II号、pp.97-99、2021年3月
- 加藤恵吉、黄孝春、小杉雅俊、内藤周子、V.カーペンター「自然栽培法による農業の地域持続可能性を高めるための施策」『地域未来創生センタージャーナル』第7号、pp.63-67、2021年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 内藤周子「利益情報の分解・集約に関する基盤思考」日本会計研究学会第98回東北部会・研究発表、オンライン、2020年12月12日

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 地方自治体における会計・ディスクロージャーに関する研究
- 農業会計に関する研究

## 林 彦 櫻

(1)現在の研究テーマ

- 零細小売業の衰退に関する歴史的研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 林彦櫻「美日貿易摩擦の歴史概説」『工業文化研究』第3巻、pp.67-82、2020年10月

[総説・解説]

- 大倉邦夫、森樹男、熊田憲、高島克史、林彦櫻「地域における社会的課題の解決と地域企業の役割に関する研究—青森県内の企業に着目して」『地域未来創生センタージャーナル』第7号、pp.77-80、2021年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 林彦櫻「安定成長期における中小小売業の事業転換——『事業転換事例集』を中心に」弘前大学経済学会2020年大会、弘前大学、2020年10月24日

[講演]

- 「地域商店街活性化の課題と対策」、2020年度地域未来創生塾第1回、2020年10月14日

(4)学外集中講義など

- 広島大学社会科学部研究科、「日本経済史1」、2020年9月1～4日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究「零細小売業の衰退に関する歴史的研究」(研究代表者) 2020～2022年度

(7)共同研究、受託研究など

- amRex共同研究「中国に於けるりんご品種登録の実務調査研究」、2020年4月～2021年3月
- 「地域における社会的課題の解決と地域企業の役割に関する研究——青森県内の企業に着目して」、2020年6月～2021年3月

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 林彦櫻、井澤龍「日本“産業経営史” 研究的源流」李暁、巫雲仙編『企業史評論』第1号、pp.28～53 (2019年の刊行論文を加筆のうえ収録)

(9)私たちがお手伝いできること (地域との連携が可能なテーマ)

- 商店街振興活動
- 地域中小企業の活動調査
- 地域企業の社史の編纂
- 県史・地方史の編纂

(10)今年度中に行う予定のセミナー・シンポジウム・講演会などの予定

- セミナー：秋田佳紀氏「青森企業のグローバル活動 (仮題)」、2021年6月24日
- セミナー：木村知紀氏「新型コロナが地域中小企業への影響 (仮題)」、2021年7月9日
- 学会報告：Small Family Businesses and Network in Retail Industry: the Rise and Fall of Shopping Streets in post-war Japan, 2<sup>nd</sup> World Congress of Business History, 9 September 2021, Online.

## 経済システム講座

### 李 永 俊

(1)現在の研究テーマ

- 人口減少対策に関する調査・研究
- 人口移動、流出防止策、UJIターン者の支援策などに関する調査・研究
- 災害復興、災害に伴う人口移動に関する調査・研究
- ボランティア労働供給に関する研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 渥美公秀、貫牛利一、李永俊 他『東日本大震災と災害ボランティア』2021年3月、大阪大学出版会
- 李永俊、花田真一、永田素彦、山口恵子、牧田大輝『令和2年度野田村のみなさまの暮らしとお仕事に関するアンケート調査報告書』2021年3月

[論文]

- Lee Young-Jun, Shinichi Hanada “An Examination of the Self-Evaluations Over Time of 3.11 Tsunami Survivors Regarding Their Post-Disaster Recovery” *Journal of Integrated Disaster Risk Management*, vol.10(1), pp.23-42, August 2020 (査読有り)
- 李永俊「新型コロナウイルス感染拡大が青森県労働市場に及ぼす影響」『地域未来創生センタージャーナル』第7号、p.28、

2021年3月、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 李永俊、花田真一「小中高の地域体験学習が地元愛着と就職地選択行動に与える影響－弘前大学生への質問紙調査より－」地域未来創生政策科学研究会、オンライン、2021年2月3日
- 李永俊「COVID-19が青森県労働市場に及ぼす影響」地域未来創生政策科学研究会、オンライン、2020年9月30日
- 李永俊、花田真一「小中高の地域体験学習が地元愛着と就職地選択行動に与える影響－弘前大学生への質問紙調査より－」日本地域経済学会、オンライン、2020年12月6日
- 李永俊、花田真一「小中高の地域体験学習が地域愛着と就職地選択行動に及ぼす影響」日本地域経済学会関東部会、リモート、2020年11月22日

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 人口減少対策に関する調査・研究
- 人口移動、流出防止策、UJIターン者の支援策などに関する調査・研究
- 地域循環経済や地域活性化に関する調査・研究
- 災害復興、防災、減災などに関する調査・研究、教育プログラム開発など

## 飯島裕胤

(1)現在の研究テーマ

- 応用理論経済学、企業金融論、ファッションブランドの経済分析

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 飯島裕胤、家田崇「ファッションブランドのライセンス契約と複合的インセンティブ問題」法と経済学研究会（オンライン開催）、2020年9月5日
- 飯島裕胤、家田崇「ファッションライセンスからみるブランドの意味」法と経済学研究会（オンライン開催）、2021年2月21日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「ファッション・デザインに関する産業財産権の法と経済分析」（研究代表者）2019～2021年度

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 長期資産形成に関わる経済理論の提供
- 契約におけるインセンティブ問題の検討

## 黄孝春

(1)現在の研究テーマ

- りんご産業の経済分析、コメの自然栽培、鉄鉱石価格の決定方式

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 黄孝春「有機農業経営のジレンマ：生産者と消費者のつながり方」『人文社会科学論叢』第9号、pp.85-98、2020年8月
- Yue Wang, Akira Tanaka, Xiao Chun Huang "From Long-term Contract to Market: An RBC Perspective on International Negotiations of Iron Ore Prices in the Asia-Pacific Region, 2009-2010" *International Negotiation*, vol.25, pp.345-371, 2020年4月（査読有り）
- 黄孝春、カーペンター、今智之「アメリカリンゴ産業におけるライセンス・ビジネス」『人文社会科学論叢』第10号、pp.237-250、2021年2月
- 加藤恵吉、黄孝春、内藤周子、小杉雅俊「自然栽培法による農業の地域持続可能性を高めるための施策」『地域未来創生センタージャーナル』第7巻、pp.63-67、2021年3月

[総説・解説]

- 黄孝春「アメリカのリンゴ産業」『林檎商組日報』2021年2月

[その他]

- 「研究室紹介」『学園だより』vol.199、pp.24-25

(3)研究発表、講演

[講演]

- 「アフターコロナにおける中国経済」、地域創生ネットワーク会議、2021年2月2日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「りんご産業における品種経営およびその導入に関する基礎的研究」令和2-4年度

(7)共同研究、受託研究など

- 合同会社 amRex との共同研究 (1): 中国におけるりんご品種登録の実務調査研究。
- 合同会社 amRex との共同研究 (2): 国内外における農産物ブランド保護状況の実態調査研究。

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- オンラインシンポジウム「自然栽培と地域づくり」、2021年2月7日

(9)私たちがお手伝いできること (地域との連携が可能なテーマ)

- 自然栽培の推進と地域の活性化
- りんごの高密植栽培

## 福田進治

(1)現在の研究テーマ

- リカードの経済理論

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 福田進治・下平裕之「リカード『原理』の普及過程－ミル『要綱』からマーティノー『例解』へ－」小峯 敦 (編)『テキストマイニングから読み解く経済学史』ナカニシヤ出版、pp.86-104、共著、2021年2月
- 船木恵子・下平裕之・福田進治「マーティノー『アイルランド便り』における経済分析」小峯 敦 (編)『テキストマイニングから読み解く経済学史』ナカニシヤ出版、pp.105-117、共著、2021年2月

[報告]

- 福田進治・花田真一「広域連携による自治体新電力設立の可能性に関する調査研究」『人文社会科学論叢』第9号、pp.129-149、共著、2020年8月
- 福田進治「2020年度消費者教育推進事業の概要／消費者問題講義の目的と構成／地域における消費者教育の担い手を育てる」『大学における消費者問題講義の実践モデル構築』(2020年度弘前大学人文社会科学部・教育学部消費者教育推進事業報告書) pp.1-4; pp.5-8; pp.69-70、単著、2021年2月

(3)研究発表、講演

[講演]

- 福田進治「広域連携による自治体新電力設立の可能性を探る調査研究」青森県消費者問題研究会定例セミナー、単独、アピオ青森、2020年8月29日
- 福田進治「大学における消費者問題講義の実践モデル構築のための調査研究」、2020年度消費者教育懇談会 (弘前大学人文社会科学部・青森県消費者協会)、単独、弘前大学、2020年11月23日
- 福田進治「大学における消費者問題講義の実践モデル構築のための調査研究」、令和2年度第2回消費者教育推進委員会 (文部科学省)、単独、AP虎ノ門 (オンライン参加)、2020年12月3日
- 福田進治・加藤徳子「弘前大学の消費者問題講義について」(検討会)、青森県消費者問題研究会定例セミナー、共同、県民福祉プラザ、2020年12月26日
- 福田進治「地域における消費者教育の担い手を育てる」消費者フォーラム in HIROSAKI (弘前大学人文社会科学部・弘前大学教育学部・青森県消費者協会／文部科学省委託事業)、単独、弘前大学立50周年記念会館、2021年1月23日
- 福田進治・加賀恵子「弘前大学の消費者教育推進事業について」(評価会)、青森県消費者問題研究会定例セミナー、単独、県民福祉プラザ、2021年2月13日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (A)「リカード・マルサス論争と古典派経済学の展開：その交錯と対抗および現代性の研究」(研究分担者) 2017年度～2021年度
- 基盤研究 (B)「経済理論の大衆化から経済政策の形成へ：テキストマイニングを応用した実証研究」(研究分担者) 2015年度～2020年度

- 基盤研究 (C)「戦間期以降の日本のリカード研究史の全体像を再構成する研究」(研究代表者) 2020年度～2024年度
- (7)共同研究、受託研究など
  - 令和2年度「若年者の消費者教育の推進に関する集中強化プラン」における若年者の消費者教育推進のための実証的調査研究(文部科学省委託事業)「大学における消費者問題講義の実践モデル構築のための調査研究」(事業推進担当者) 2020年度
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
  - [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]
    - 消費者教育懇談会(弘前大学人文社会科学部・青森県消費者協会)、弘前大学、2020年11月23日
    - 消費者フォーラム in HIROSAKI(弘前大学人文社会科学部・弘前大学教育学部・青森県消費者協会／文部科学省委託事業)、弘前大学、2021年1月23日
  - [それ以外のもの]
    - 2020年マルサス学会大会(オンライン報告会)オンライン、2020年9月12日
- (9)私たちがお手伝いできること(地域との連携が可能なテーマ)
  - 地域エネルギー事業に関する問題
  - 核燃料サイクル施設をめぐる問題
  - 消費者教育の推進に関する問題
- (10)今年度中に行う予定のセミナー・シンポジウム・講演会などの予定
  - 消費者教育懇談会、弘前大学、2021年11月23日
  - 消費者フォーラム in HIROSAKI、弘前大学、2022年1月22日

## 細 矢 浩 志

- (1)現在の研究テーマ
  - EU統合下の欧州自動車産業の変容に関する実証研究
- (3)研究発表、講演
  - [研究発表]
    - 細矢浩志「欧州『EVシフト』と主要自動車OEMの『脱炭素』戦略」立教大学経済研究所プロジェクト研究「コロナ危機とEU統合の再検討」第5回研究会、オンライン、2021年3月8日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
  - 基盤研究 (C)「欧州自動車多国籍企業の生産ネットワーク戦略の基本構造と進化に関する実証的研究」(研究代表者) 2017～2021年度
- (7)共同研究、受託研究など
  - 立教大学学術推進特別重点資金共同プロジェクト研究「欧州におけるEVシフトと生産・インフラ・ネットワークの再構築と日系企業への影響」2019～2021年度
- (9)私たちがお手伝いできること(地域との連携が可能なテーマ)
  - 地方発「再生可能エネルギー」事業の可能性について
  - 地域創生に資する「産業・経済振興」のあり方について(人口増・定住に寄与する雇用創出型地域振興モデルの構築・政策提言など)

## 金 目 哲 郎

- (1)現在の研究テーマ
  - 地方交付税、地方財源保障、財政民主主義
- (2)著書、論文、その他
  - [その他、研究ノート]
    - 金目哲郎「ポスト・コロナ時代における地域経済と地方財政の政策課題」『弘前大学大学院地域社会研究科年報』第17号、pp.45-56、2021年3月
  - [総説・解説]
    - 金目哲郎「新型コロナ、自然災害と異なるダメージ 地方財政への影響は長期に」『公益社団法人日本経済研究センター政策ブログ』2020年5月7日

(3)研究発表、講演

[講演]

- 金目哲郎「新型コロナが地方財政にもたらす影響」日本経済研究センターWebセミナー、オンライン、2020年6月29日
- 金目哲郎「地方自治と地域経済のための「ふるさと納税」制度の課題」弘前大学地域社会研究科公開セミナー、五所川原市、2020年11月28日

[討論]

- 金目哲郎「COVID-19と経済 社会経済的危機にどう向き合うか? 「逃走する即興：医学、政治・経済学、そして音楽」日本音楽即興学会第12回大会、オンライン、2020年10月31日

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 自治体財政の現状と課題

## 桑波田 浩之

(1)現在の研究テーマ

- グローバル化が所得格差に与える影響、新型コロナウイルスが地域経済に与える影響

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 桑波田浩之「新型コロナウイルスによる観光客の減少が青森県の経済へ与える影響」『人文社会科学論叢』第9号、pp.121-128、2020年8月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 桑波田浩之「新型コロナウイルスが青森県の経済へ与える影響について」第44回弘前大学経済学会大会、弘前大学、10月24日

[講演]

- 桑波田浩之「新型コロナウイルスが県内経済へ与える影響について」弘前商工会議所 第9回常議員会、単独、弘前アートホテル、2020年7月29日
- 桑波田浩之「新型コロナウイルスがもたらす影響と今後の社会～アンケート調査より県経済の実体を探る～」第1回地方創生ネットワーク会議、単独、弘前大学、2020年8月28日
- 桑波田浩之「新型コロナウイルスが青森県の経済へ与える影響について～アンケート調査より県経済の実体と対策を探る」工業系支援機関ネットワーク研修会in東北、単独、東北経済産業局、2020年11月6日
- 桑波田浩之「新型コロナウイルスへの県内企業の対応状況と今後の課題」第2回地方創生ネットワーク会議、単独、弘前大学、2020年11月27日

(4)学外集中講義など

- オープンキャンパス模擬講義（オンラインキャンパス）「自由貿易はなぜ必要か？」弘前大学、2020年8月8日
- 大曲高校模擬講義「自由貿易はなぜ必要か？」大曲高校、2020年10月7日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究「グローバリゼーションが経営者の報酬へ与える影響に関する計量実証研究」(研究代表者) 2020～2022年度

(7)共同研究、受託研究など

- 東北医療福祉事業協同組合 調査研究事業「新型コロナウイルスが青森県経済へ与える影響に関する実証研究」(研究代表者) 2020年12月～2021年9月

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 企業・個人のデータの統計的分析
- 企業の海外進出・地域活性化に関する経済学視点からの研究・教育

## 小谷田 文彦

(1)現在の研究テーマ

- 企業行動の実証分析、地域活性化と産官学連携

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 小谷田文彦「経済効果の計り方 -産業連関分析入門-」地域未来創生塾、弘前市中央公民館、2020年10月14日

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 地域政策の経済分析

## 山本 康裕

(1)現在の研究テーマ

- 金融政策全般
- 銀行貸出の変動が実体経済に与える影響
- 青森県経済のマクロ時系列分析

(2)著書、論文、その他

[論文]

- Yasuhiro Yamamoto “Less competitive bank markets:Conventional and unconventional monetary policies through bank-lending channels” *Internatinal Finance*, vol.23(2), p.277-296, September 2020（査読有り）
- 山本康裕「鳥取県マクロ経済に対する非伝統的金融政策の波及経路」『人文社会科学論叢』第10号、pp.155-175、2021年2月

## 公共政策講座

### 平野 潔

(1)現在の研究テーマ

- 刑事過失論、裁判員制度、法教育

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 平野潔「裁判員経験者の「経験」に基づいた裁判員制度の見直し－「裁判員経験者との意見交換会」を素材として－」『裁判員経験者の「経験」を踏まえた裁判員制度の研究』2021年3月、単著
- 平野潔「犯人の死亡と犯人隠避罪の成否」『刑法判例百選－各論 [第8版]』pp.250-251、2020年11月、単著
- 平野潔「入会地内で行われた野焼作業における経験豊富な現場作業員らによる危険な着火行為と企画・立案者の注意義務」『刑事法ジャーナル』第64号、pp.89-94、2020年5月、単著

[その他]

- 平野潔編『裁判員裁判を中心とした地域司法の現状－コロナ禍における学生の活動報告－』pp.1-83、2021年3月

(3)研究発表、講演

[講演]

- 平野潔「裁判員の『体験』から見る課題」裁判員の『体験』を踏まえた裁判員制度、単独、弘前大学人文社会科学部校舎多目的ホール（Zoom）、2020年11月21日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 一般財団法人司法協会研究助成「裁判員経験者の『経験』を踏まえた裁判員制度の研究」（研究代表者）2019年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 裁判員制度シンポジウム「裁判員の『体験』を踏まえた裁判員制度」、弘前大学、2020年11月21日

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 法教育に関する教材作成、とくに模擬裁判のシナリオ作りなど
- 裁判員制度や刑事司法に関すること全般

(10)今年度中に行う予定のセミナー・シンポジウム・講演会などの予定

- 10～11月頃、裁判員制度シンポジウムを開催する予定

### 児山 正史

(1)現在の研究テーマ

- 公共サービスの市場（準市場）としての福祉・医療の選択制、地方自治体の行政評価

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 佐藤徹、児山正史 他『エビデンスに基づく自治体政策入門』pp.12-18, 20-24、2021年2月、公職研

[論文]

- 児山正史「準市場の優劣論と障害者福祉の選択制（4・完）」『人文社会科学論叢』第9号、pp.61-74、2020年8月、単著
  - 児山正史「準市場としての保育所の選択制（1）」『人文社会科学論叢』第9号、pp.75-84、2020年8月、単著
  - 児山正史「準市場としての保育所の選択制（2）」『人文社会科学論叢』第10号、pp.177-199、2021年2月、単著
- (9) 私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）
- 地方自治体の計画・評価

## 近 藤 史

(1)現在の研究テーマ

- 農村部を中心とした地域の持続的発展。生態環境の利用と保全。

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 近藤 史「むつ市協野沢地区における国有林の利用」『地域研究方法論の総合的検討』pp.37-44、2021年3月、単著
- Fumi KONDO “DESIGNING COLLABORATIVE SOCIAL RESEARCH PROGRAMS WITH STUDENTS AND FARMING COMMUNITIES: A CASE FROM HIROSAKI, NORTHERN JAPAN” *Themes and Methodologies in Area Studies*, pp.68-74, March 2021

[その他]

- 近藤 史「林業先進地のトイレ事情」『アフリック・ニュース（ウェブマガジン）』2021年1月

(3)研究発表、講演

[講演]

- Fumi KONDO “Designing Collaborative Social Research with Students and Farming Community: A Case from Hirosaki, Northern Japan” Webinar on Social Research Education by Hirosaki-UNZA, 12th December 2020

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- アフリカを身近に感じ、より深く理解するための講演会、写真展、ワークショップ
- 地域の生業や暮らし・食文化、環境の利用・保全を題材にした調査研究、学生との交流、まちづくり

## 白 石 壮一郎

(1)現在の研究テーマ

- 移住・移動者とホーム（家郷意識形成）、場所と共同性／公共性、地域社会の再想像、フィールドワーク（社会調査）論など

(2)著書、論文、その他

[著書]

- SIINO, Wakana & Ian KARUSIGARIRA Eds., *Youth in Struggles: Unemployment, Politics, Cultures in Contemporary Africa*. pp.15-37, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, March 2021

[その他]

- 白石壮一郎、近藤史、葉山茂「持続的な「小さな社会経済」の未来を構想するためのアーカイブの模索：ポスト経済成長期青森県の生業口述史の蓄積」『地域創生センタージャーナル』第7号、pp.71-75、2021年2月
- 白石壮一郎「沿岸漁師のスタートアップ：青森県下北郡風間浦村での聞き取り調査から」、白石壮一郎・近藤史・葉山茂・石本雄大『地域研究方法論の総合的検討』、pp.7-18、2021年3月
- SHIRAIISHI, Soichiro “Brief Training Programme on Participatory Observation Techniques: Notes on Research Methods in Social Anthropology and Applications for Faculty Education (Part 1)” in SHIRAIISHI, Soichiro, Fumi KONDO, Shigeru HAYAMA & Yudai ISHIMOTO *Themes and Methodologies in Area Studies*, pp.49-56, March 2021
- SHIRAIISHI, Soichiro “Concepts and Difficulties Encountered During Interview Research: Notes on Research Methods in Social Anthropology and Applications for Faculty Education (Part 2)” in SHIRAIISHI, Soichiro, Fumi KONDO, Shigeru HAYAMA & Yudai ISHIMOTO *Themes and Methodologies in Area Studies*, pp.57-67, March 2021

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- SHIRAIISHI, Soichiro “Extended ‘Age of Opportunity’?: Adolescence, Uncertainty and Globalism among Youth in East Africa” ILCAA webinar on African Youth, 22th November 2020
- SHIRAIISHI, Soichiro “Notes on Research Methods of Social Anthropology: Applications for Faculty Education”, Webinar on Social Research Education, 12th December 2020

(4)学外集中講義など

- 弘前大学人文社会科学部オンラインキャンパス講義「高学歴化するアフリカ！：ケニアの高卒・大卒女子の生きる道」、2020年7月映像公開、弘前大学人文社会科学部編『弘前大学人文社会科学部オンラインキャンパスガイド』、pp.19-20所収
- 放送大学講義「上京・Uターン・観光の人類学」、放送大学青森学習センター、全8回、2020年11月28日～29日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 挑戦的研究（萌芽）「ハンセン病療養所における生と再生：個人情報保護とアーカイブ化の可能性」（研究分担者。代表：田原範子）2020～2022年度
- 基盤研究（C）「東アフリカ高学歴女性のライフコース戦略の研究：農村家族関係と新興中間層形成の動態」（研究代表者）2019～2021年度
- 基盤研究（B）「トランスローカリティの社会学：条件不利地域と地方中枢拠点都市の生活とキャリア」（研究分担者。代表：羽瀨一代）2018～2021年度

(7)共同研究、受託研究など

- 地域未来創生センター地域未来創生教育・研究プロジェクト経費「持続的な「小さな社会経済」の未来を構想するためのアーカイビングの模索：ポスト経済成長期青森県の生業口述史の蓄積」（研究代表者）2020年度
- 人文社会科学部戦略研究経費（ミッション達成経費）「住民参加型の地域社会調査方法論の研究：アジア・アフリカ地域の大学との研究教育交流」（研究代表者）2020年度
- 青森県構造政策課「地域経営体を中心とした共助・共存の農山漁村づくり」事業（研究協力者。統括：平井太郎）、2019～2021年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- Webinar on Social Research Education, 12th December 2020.

(9)私たちがお手伝いできること（地域との連携が可能なテーマ）

- 地域間人口移動に関わる質的社会調査
- 地域の交流拠点的な場の形成に関わる質的社会調査
- 小中高生に向けた地域フィールドワーク教育

## 長谷河 亜希子

(1)現在の研究テーマ

- 独占禁止法、フランチャイズ・システム、フリーランス

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 長谷河亜希子「日本におけるフランチャイズ法制定の必要性－諸外国のFC規制から学ぶべきもの－」『中小商工業研究』第145号、pp.53-61、2020年10月、単著

[その他]

- 土田和博、渡辺昭成、長谷河亜希子、青柳由香「学会回顧（経済法）」『法律時報』第92巻13号、pp.130-138、2020年12月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 長谷河亜希子「プラットフォーム労働者と経済法」クラウドソーシング研究会、オンライン、2020年8月7日
- 長谷河亜希子「フランチャイズ契約におけるno-poach条項について」民主主義科学者協会法律部会商法経済法分科会オンライン春合宿、オンライン、2021年3月26-27日
- 長谷河亜希子「プラットフォーム労働者と経済法」民主主義科学者協会法律部会商法経済法分科会オンライン夏合宿、オンライン、2020年9月2-3日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (A) 「データ駆動型社会の法に関する領域横断的研究－デジタルプラットフォームを焦点に」(研究分担者) 2019～2023年度
- 基盤研究 (C) 「競争法によるオンライン・プラットフォーム規制とギグ・ワーカーの保護に関する研究」(研究代表者) 2019～2022年度

(9)私たちがお手伝いできること (地域との連携が可能なテーマ)

- 独占禁止法やフランチャイズ契約が関連する諸問題

## 吉村 顕真

(1)現在の研究テーマ

- 日米不法行為法の研究
- 日米救済法の研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 吉村顕真「責任能力なき精神障害者の賠償責任に関する基礎的考察－19世紀アメリカ法を素材として－」『青森法政論叢』第21号、pp.40-54、2020年8月、単著 (査読有り)

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 吉村顕真「責任能力なき精神障害者の賠償責任に関する基礎的考察－19世紀アメリカ法を素材として－」北海道大学 民法研究会、オンライン、2020年6月26日
- 吉村顕真「民事損害賠償制度による実効的救済」法政大学 実効的救済研究会、オンライン、2020年8月8日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究C：令和2年度 弘前大学科研費獲得支援事業

(9)私たちがお手伝いできること (地域との連携が可能なテーマ)

- 民法上の諸問題